

(午後)

「ヨーロッパ価値観調査の意義とその内容」

札埜和男 (関西学院大学)

「ドイツ・ケルン大学セントラルアーカイブの歴史と国際比較調査の発展」

真鍋一史 (関西学院大学)

「2000年国民生活時間調査の結果」

三矢恵子 (NHK)

「世論調査とデータの科学」

林 知己夫 (統計数理研究所)

午後には以上の4報告に続き、堀江湛・尚美学園大学教授による「投票行動研究と世論調査技術の問題点」と題された講演が行われた。世論調査は人口研究とは直接結びつきにくいと思われるかもしれないが、欧米の人口研究がマイクロデータの分析に重点を置くようになって以来、特に人口行動に対する価値観の影響を重視するような状況も相まって、サンプル調査方法論と世論調査に対する関心が高まっていることを忘れてはならないであろう。

なお、以上の報告・講演の要旨は同協会の機関紙『よろん (日本世論調査協会報)』第89号 (2002年3月) に掲載される予定である。また、2002年大会は11月15日に大阪府吹田市の関西大学で開催されることになっている。

(小島 宏記)

2001年度 (第36回) 日本都市計画学会学術研究論文発表会

社団法人日本都市計画学会による2001年度日本都市計画学会学術研究論文発表会は、2001年11月17日 (土)・18日 (日)、早稲田大学国際会議場 (東京都新宿区) で開催され、表題に人口の語を含む研究論文としては次の3つが発表された (○印は発表者)。

「人口密度指標を用いた都市の生活環境評価に関する研究—交通生活及び徒歩圏の地域生活施設を中心に—」

○海道清信 (名城大学)

「ニュータウンにおける人口変動推計手法に関する研究」

○石神孝裕 (助計量計画研究所)・黒川洸

「少子高齢化人口減少社会が都市内公共交通機関に与える定量的影響評価」

○円山琢也 (東京大学大学院)・室町泰徳・原田昇・太田勝敏

海道氏は、日本の主要49都市のDID人口密度に注目し、人口の集中が自動車への依存の抑制と結びついていることなどを示した。石神氏の発表は、多摩ニュータウンの一部における過去30年の人口変動に注目して世帯推計の改善方法を論じるものであった。円山氏の発表は、千葉都市モノレールの利用者数を2050年まで予測するものであり、その基礎として千葉市内の447ゾーンについて将来人口推計を行っていた。また、これらの発表のそれぞれについて質疑討論が行われた。

なお、この発表会は第36回であるが、2001年は日本都市計画学会創立50周年にあたっている。

(今井博之記)

第74回日本社会学会大会

第74回日本社会学会は、11月24日、25日の両日、一橋大学で開催された。前回まで一般研究報告件数は上昇傾向にあり、全ての報告を2日間で終えるため今大会から一人あたりの報告時間は20分から15分に短縮され、一部の報告人数も6人を標準とすることになった。しかし、今回の一般研究報告